

第22回大会プログラム  
日本パーソンナリティ心理学会

 JSPP 22

 Edogawa  
university 2013

2013年10月12日(土)・13日(日)  
江戸川大学 駒木キャンパス

ご挨拶

このたび、日本パーソナリティ心理学会 第22回大会を2013年10月12日（土）、13日（日）の2日間、千葉県流山市にある江戸川大学駒木キャンパスにて開催させていただきます。最寄り駅は、つくばエクスプレス線「流山おおたかの森駅」です。都心から30分とアクセス良好です。

大会企画としては、海外からは子どもから成人までの不適応とパーソナリティ研究に関して第一線でご活躍のDe Fruyt先生を招聘し、御講演いただく予定です。その他、臨床心理士等のスキルアップにつながるシンポジウムや講習会（睡眠障害の理解と心理支援 精神医学者・高橋清久先生）などを企画しております。

また本大会では、若手研究者向けに、学会発表に関する支援やパーソナリティ心理学の基礎教育に関する講義支援に関する企画もございます。会員の研究発表（ポスター発表）は大会1日目に集中させました。例年通り、優秀大会発表賞の審査もございます。その他、大会2日目には公開講座「生命科学の進歩をめぐるヒトとパーソナリティの未来」を開催します。生物学者の太田次郎先生による「生命科学の進歩と人間の未来」、行動遺伝学者の安藤寿康先生による「遺伝的個人差と教育」を企画しております。

大会開催期日は3連休にもあたり、ご家族やご友人もお誘い合わせの上、ご参加ください。

このように本大会では、パーソナリティを軸に、心理学、精神医学、生物学と学際的な大会としたいと思っております。大会懇親会では江戸情緒あふれる屋形船ツアーを、エクスカッションとして東京スカイツリーを含む下町散策を企画しております。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2013年 8月吉日

日本パーソナリティ心理学会第22回大会準備委員会

委員長	松田英子（江戸川大学）
副委員長	高澤則美（江戸川大学）
事務局長	中村 真（江戸川大学）
事務局	小出 建（(株)フィスメック）

# 大会日程

## 【大会1日目】 10月12日(土)

		9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
B棟	1階ロビー	参加受付 (9:00～15:30)														
	1階メモリアルホール	受付 (9:00～)	大会準備委員会企画・江戸川大学睡眠研究所共催シンポジウム「睡眠障害の理解と心理支援」 (9:30～12:10)						国際交流委員会企画 招待講演 Dr. Filip De Fruyt (13:45～15:30)							
E棟	2階 E211	受付 (9:30～)	ポスター発表1 (10:00～12:00)				ポスター発表2 (13:30～15:30)									
	2階 E201	展示・書籍販売 (9:30～15:30)														
	1階	クローク(E131, E132, E133) (9:00～15:45) 休憩室(E101) (9:00～15:45)														
	1階映像ホール	受付 (9:00～)	広報委員会企画シンポジウム「パーソナリティ心理学における統計分析の方法」(9:30～11:30)				総会 (12:30～13:30)		経常的研究交流委員会企画シンポジウム①「助け合いの心理学」 (13:30～15:30)							
A棟	8階会議室	委員会														
C棟	2階C203	受付 (9:00～)	託児所 (9:30～15:45)													

※懇親会参加者は、15:45にスクールバス乗り場に集合して下さい。貸し切りバスにて船着き場(浅草)に移動します。

【大会2日目】 10月13日(日)

		9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00
B棟	1階ロビー	参加受付 (9:00~12:30)								
	1階メモリアルホール	受付 (9:00~)	公開講座・大会準備委員会企画 「生命科学の進歩と人間の未来」 (10:00~12:30)							
E棟	2階 E202	経常的研究交流委員会企画シンポジウム② 「恋愛関係の終わりを考える」 (9:00~11:00) ※受付は8:30~				自主企画シンポジウム 「県民性とパーソナリティ」 (11:30~13:00)				
	2階 E211	展示・書籍販売(休憩コーナー併設) (9:30~13:00)								
	1階	クローク(E131, E132, E133) (9:00~13:00) 休憩室(E101) (9:00~13:00)								
	1階映像ホール	受付 (9:00~)	大会準備委員会・学会活性化委員会企画セミナー 「高校生向けの『パーソナリティ心理学』の授業」 (9:30~13:00)							
A棟	8階会議室	委員会								

# 会場へのアクセス

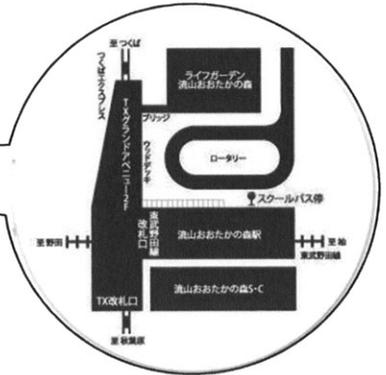
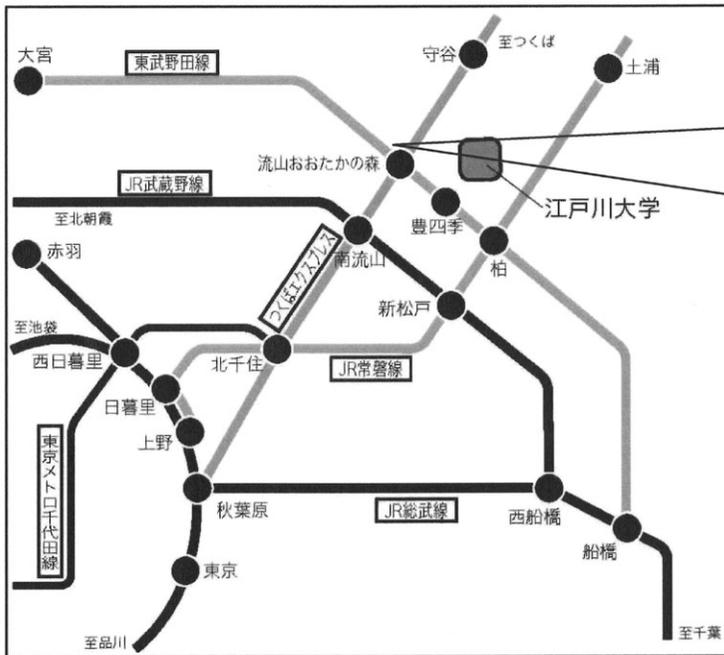
## 大会会場

江戸川大学駒木キャンパス

〒270-0198 千葉県流山市駒木 474

会場へのアクセスについては、<http://www.edogawa-u.ac.jp/koutuu/index.html> をご覧ください。

ご来場の際には公共交通機関をご利用ください。



スクールバス時刻表

時	流山おおたかの森駅発	
8	25	45
9	15	35
10	00	20 40
11	00	50
12	10	40
13	0	
14	20	40
15	00	20
16	10	30 50

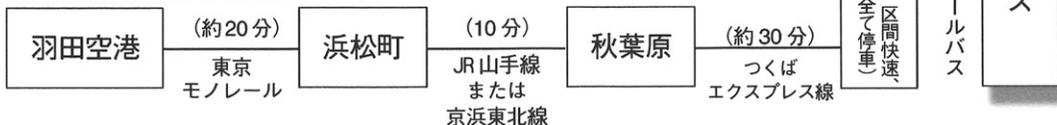
## 東京から約45分



## 上野から約30分

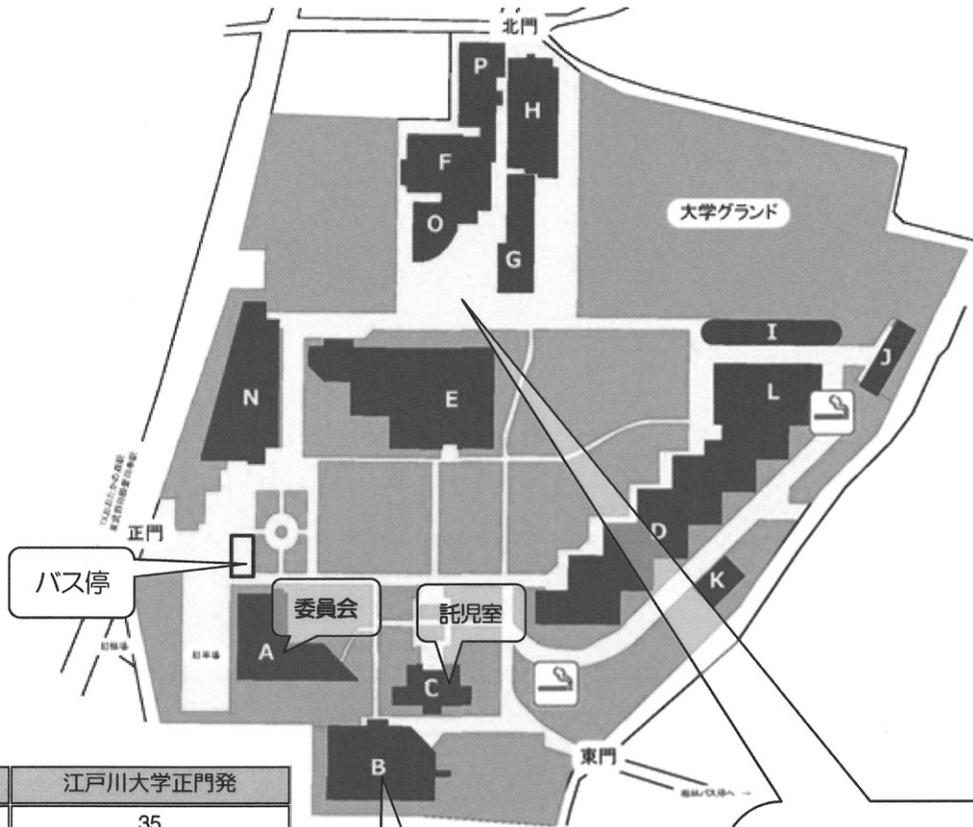


## 羽田空港から約1時間10分



※スクールバスは無料です。江戸川大学、江戸川大学総合福祉専門学校の学生、受験希望者も利用します。

# キャンパスマップ



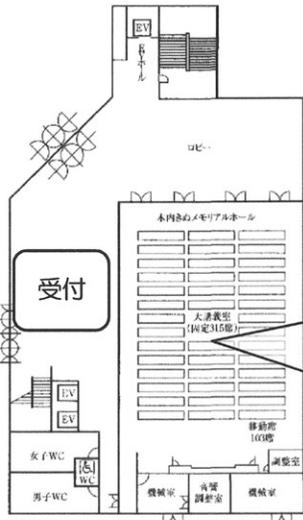
時	江戸川大学正門発		
8	35		
9	05	25	50
10	10	30	50
11	40		
12	00	30	50
13			
14	10	30	50
15	10	30	
16	00	20	40
17	20	40	
18	20		

**【B 棟】**  
 受付  
 シンポジウム  
 「睡眠障害の理解と心理支援」  
 招待講演  
 公開講座「生命科学の進歩と人間の未来」

**【E 棟】**  
 クローク  
 休憩室  
 展示  
 総会  
 ポスター発表会場  
 シンポジウム  
 「パーソナリティ心理学における統計分析の方法」  
 「助け合いの心理学」  
 「恋愛関係の終わりを考える」  
 「県民性とパーソナリティ」  
 大会準備委員会・学会活性化委員会企画セミナー

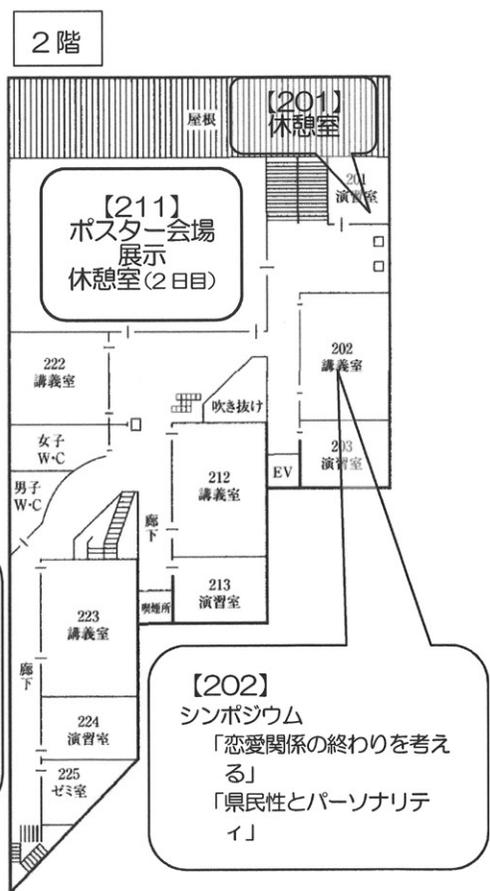
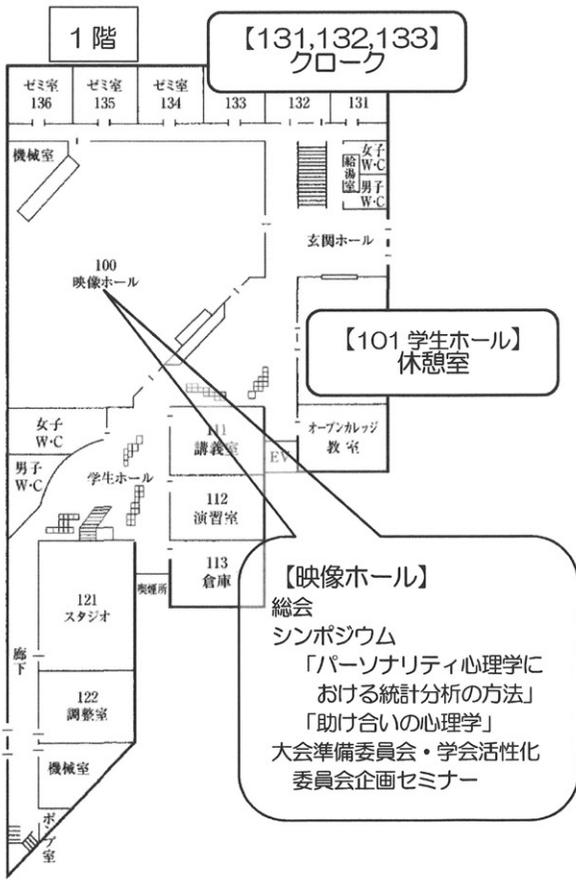
# 会場図

## B棟



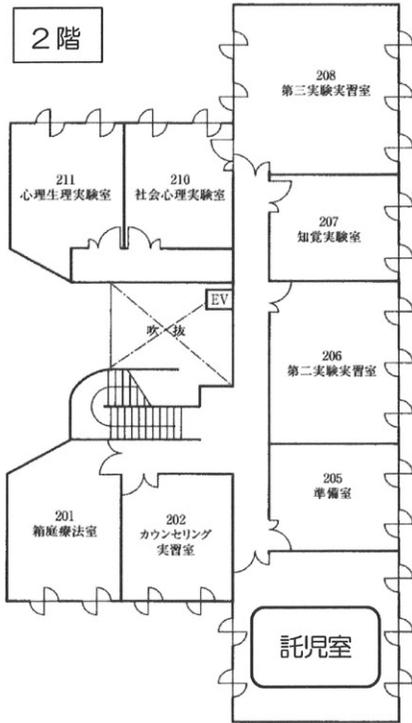
【メモリアルホール】  
シンポジウム  
「睡眠障害の理解と心理支援」  
海外招待講演  
“General and maladaptive traits from childhood to adulthood: lessons to be learned for the conceptualization and assessment of personality pathology”  
公開講座「生命科学の進歩と人間の未来」

## E棟



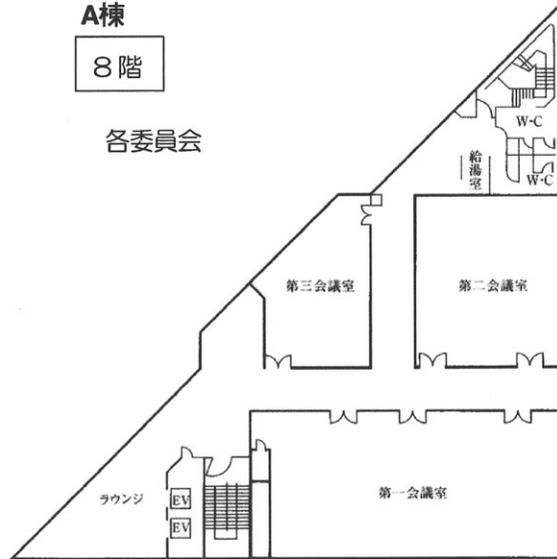
C棟

2階



A棟

8階



# 大会参加者へのご案内

## 1. 会期と会場

会期：2013年10月12日（土）・13日（日）

会場：江戸川大学 駒木キャンパス（〒270-0198 千葉県流山市駒木474）

つくばエクスプレス線・東武野田線「流山おおたかの森」駅よりスクールバス（無料）、タクシーにて5分

大会公式サイトURL <http://www.edogawa-u.ac.jp/~jspp22/>

## 2. 大会参加に関する諸費用

費目	区分	金額（円）	備考	
大会参加費 (発表費、論文集代 を含みます)	早期予約	一般	9,000	
		院生・学部生	8,000	
		院生（デビュー割）	7,000	
		非会員	10,000	
	予約	一般	10,000	
		院生・学部生	9,000	
		院生（デビュー割）	8,000	
		非会員	11,000	
	当日	一般	11,000	
		院生・学部生	10,000	
		院生・学部生（聴講参加）	5,000	※発表論文集なし
		非会員	12,000	
懇親会費	予約のみ	一般	9,000	会員限定
		院生・学部生	8,000	
発表論文集費	機関購入	6,000		

※ 一度納入された諸費用は払い戻しいたしません。あらかじめご了承ください。

※ 大会への参加にかかわらず、連名発表者は大会参加費の納入が必要です。

※ 「デビュー割」とは、院生会員の方が本学会における発表を今大会で初めて行う場合に適用されるものです（自己申告制）。2013年6月20日までに参加・発表申込を済ませた方に限ります。

※ 懇親会費は、屋形船の乗船飲食代と大会会場から乗船場までの移動のバス代です。

※ 懇親会は、申込者が定員60名（先着順）に達しましたので、受付を終了させていただきました。今大会では、懇親会の当日参加枠は設けておりません。

※ 発表論文集は、大会当日、受付にて配布されます。

## 3. 会場設備

### 受付

B棟1階ロビーに受付を設置いたします。大会に参加する方は、会員・非会員、予約参加・当日参加にかかわらず、必ずお立ち寄り下さいますようお願いいたします。受付にて、参加証および領収書、発

表論文集（院生・学部生の当日聴講参加を除く）をお渡しいたします。

## クローク

E棟1階にクロークを設置いたします。貴重品につきましては、各自で管理いただきますようお願いいたします。

## 休憩室

大会1日目（10月12日）は、E棟101教室およびE棟201教室を休憩室といたします。

大会2日目（10月13日）は、E棟101教室およびE棟211教室（展示・書籍販売も併設）を休憩室といたします。

## 展示・書籍販売

E棟211教室に展示・書籍販売スペースを設置いたします。大会1日目はポスター発表会場を併設し、大会2日目は休憩室を併設いたします。

## 託児所

託児所を大会1日目の9：00～16：00まで開設いたします。人数制限（30名程度）がございますので、なるべくお早めに大会準備委員会宛（jspp22@edogawa-u.ac.jp）にメールにてご予約下さい。その際、お子様の年齢と人数をお知らせください。2013年9月28日（金）締め切りといたします。

## 会期中の昼食

大会1日目（10月12日）は、午前12：30までに参加受付を済ませた方全員（非会員を含む希望者）に弁当の引換券を配布いたします（無料）。弁当の配布時間・場所は、大会1日目の12：30より、B棟1Fです。メモリアルホールまたは休憩室にてお召し上がりください。大会1日目の12：30～13：30に行われる総会に参加する会員の方は、総会会場で弁当をお受け取り下さい。

会場からスクールバスで約5分の「流山おおたかの森駅」の周辺には飲食店がありますが、会場の徒歩圏内には飲食店がほとんどございません。また、大会会期中は会場内にある学生食堂も営業いたしませんので、大会1日目の午前からご参加の方はご注意ください。

なお、大会2日目は、すべてのセッションが13：00に終了しますので、弁当はご用意いたしません。

## その他（注意点）

大会会場は全館禁煙です。喫煙される場合は、屋外（C棟とD棟のあいだのスペース）に設置された喫煙コーナーをご利用ください。

大会期間中、発表の録音および録画、撮影、中継や実況をする場合は、発表者の許可を取るようお願いいたします。また、Twitterなどの公共性の高いメディアで発表内容を情報発信する場合は、発表者や他の参加者の気分を害することがないようにお願いいたします。

## 4. 大会関連行事のご案内

### 総会

大会1日目（10月12日）の12：30よりE棟1階「映像ホール」にて開催いたします。

## 懇親会

大会1日目(10月12日)の夕刻に開催します。大会会場から貸し切りバス(バスガイド付)にて移動し、浅草から隅田川を遊覧する屋形船に乗船します。懇親会終了後、浅草にて現地解散となります。懇親会は、申込者が定員60名(先着順)に達しましたので、受付を終了させていただきました。予約参加でお申込みの方は、15:45までにスクールバス停留所にご集合ください。16時にバスが出発いたしますので、乗り遅れのごさいますようお気を付けてください。

今大会では、懇親会の当日参加枠は設けておりません。

## エクスカージョン

大会1日目(10月12日)の夕刻に、東京スカイツリーにて開催します。受け付けはすでに終了させていただきました。事前予約の方は、JTBからの案内に従って、ご参加ください。

## 大会発表賞授賞式

大会1日目の総会で昨年度大会の大会発表賞授賞式を行います。

## 理事会

大会前日(10月11日)の16:00より、大会会場の江戸川大学駒木キャンパスA棟8階会議室にて行います。常任理事、理事の先生方には、あらためて学会事務局よりご案内いたします。

## ヤングサイコロジストプログラム(YPP2013)

大会前日(10月11日)15:00より、東京大学教育学部 第一会議室(東京メトロ丸の内線「本郷三丁目駅」より徒歩5分)にて行います。

※ YPP2013の開催場所は、大会会場とは異なります。ご注意ください。

## 5. 各種資格更新ポイントについて

本大会は、臨床心理士および学校心理士の資格更新ポイント対象となっております。

臨床心理士に関しては、「日本臨床心理士資格認定協会：臨床心理士資格更新制度」の「③本協会が認める関連学会での諸活動への参加」に該当します。

学校心理士に関しては、「一般社団法人学校心理士認定運営機構：資格取得・更新」の種別記号表と提出書類一覧の中の「⑤種別記号F, G, H, I」に該当します。詳細に関しましては、本大会サイトの中の「資格更新ポイント」ページ(<http://www.edogawa-u.ac.jp/~jspp22/shikaku.html>)をご覧ください。

## 6. 公開講座について

本大会では、一般の方々も大会2日目の10:00からの公開講座にご参加いただけます。参加費は1,000円です。当日公開講座受付窓口にてお支払ください。

## 発表者へのご案内

### 1. ポスター発表

- ・今大会のポスター発表は、大会1日目（10月12日）に2セッションを予定しております。
- ・ポスター発表1が10：00～12：00、ポスター発表2が13：30～15：30となっております。
- ・発表者は、セッションの開始時刻までに自分の発表番号のパネルにポスターを掲示して下さい。各自、割り当てられたセッションの時間（120分間）はポスターを掲示し、在席時間（奇数番号はセッション開始後60分、偶数番号はセッション終了前60分）の間、質疑に応じる必要があります。
- ・セッション終了時刻になったら、速やかにポスターの撤去をお願いいたします。撤去されないまま放置されたポスターは大会準備委員会で処分いたします。
- ・発表パネルの大きさは、1発表につき、縦1.8m、横1.2mです。パネルにおさまるのであれば、ポスターのサイズは問いません。ただし、掲示スペースの上部に「発表題目」「氏名」「所属」を明示して下さい。なお、資料等を配布される場合には、各自で事前に準備していただき配布するようお願いいたします。大会会場には、資料をプリントアウトできる場所はありません。
- ・責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、事前に大会準備委員会の承認を得て、連名発表者が発表を代行することができます。ただし、承認がない場合、正式な発表として認められない場合がありますので、ご注意ください。代行や発表取り消しについては、事前に大会準備委員会までご連絡ください。
- ・今大会では、例年同様、優秀大会発表賞を設けます。抄録原稿を対象とした一次審査と、当日の発表を対象とした二次審査による総合的審査で受賞者を決定します。

### 2. 大会企画・各種委員会企画・自主企画

- ・会場に発表資料投影用の機材（プロジェクター、スクリーン）を用意します。パソコンは、各自でご準備ください。パソコンの準備を希望される場合には、事前に大会準備委員会までご相談ください。
- ・登壇者は、各プログラム開始の5分前までに会場にお越しいただき、あらかじめファイルをパソコンに入れておくなどの事前準備をしていただきますようお願いいたします。

## 2013年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2013)

日本パーソナリティ心理学会では、毎年年次大会の前日にヤングサイコロジストプログラム (YPP) を開催しています。YPPは、若手研究者同士が互いの研究について議論したり、研究活動を行う上で必要な情報を交換したりする機会を提供することを目的としています。今年も年次大会の前日にYPPを開催しますので、全国の若手研究者との交流を深める機会として、ぜひ奮ってご参加ください。

**開催日時：**2013年10月11日（金）15時～18時（延長あり）

※終了後、19時から会場周辺で懇親会を予定しております。

**開催場所：**東京大学教育学部第一会議室（東京メトロ丸の内線本郷三丁目駅より徒歩5分）※年次大会とは会場が異なるので十分ご注意ください。なお、大会会場の流山、柏付近に宿泊している参加者の方にも心おきなく懇親会を楽しんでいただけるよう、運営側で帰りの時間管理や交通手段のご案内、近接駅までの誘導をさせていただきます。

### 企画内容

(1)「良い研究」を行うための「つながり」について議論する

この企画は、議論を通して参加者の皆さまが、将来有意義で独創性のある研究を行うための手掛かりを得ることを目的としています。「良い研究」を行うために必要な、研究者の持つべき「つながり」について、参加者の皆さまご自身の考えや経験をもとにディスカッションしていただきたいと思います。具体的には参加者の皆さまには、所属を超えた交流を持つためのつながり、異なる研究視点の融合発展を促すためのつながり、共同研究を行うためのつながりという3つのつながりについて、それぞれのつながりがどのように得られるか、そして、そのつながりを上手く活かしていくためにはどのようにしたら良いか、各つながりのグループに分かれ、議論していただきたいと思います。そして最後に全体でのディスカッションを行う予定です。

以下に各つながりの定義を簡単にまとめて示します。

(ア)所属を超えた交流を持つためのつながり

学会やSNS等で同じ専門領域の他の研究者とつながること。

(イ)異なる研究視点の融合発展を促すためのつながり

他の専門領域の研究者や、研究者以外の職種（例：教師・カウンセラー等）とつながること。

(ウ)共同研究を行うためのつながり

一つの研究目的のもとで共同研究を行うために他の研究者とつながること。

(2)研究紹介

ご自身の研究を発表し、議論の場を提供してくださる方を募集します。発表形式は、一般発表（発表20分、質疑応答10分）とショート発表（発表10分、質疑応答5分）の2通りがあります。発表を希望される方は発表内容のボリュームに合わせて形式をお選びいただけたらと思います。

**参加資格：**学部または大学院に在籍している学生もしくは学部卒業または大学院修了（退学含む）5年以内の方

※日本パーソナリティ心理学会の会員でなくても、参加可能です。

**申込方法：**以下の情報を下記の連絡先までお送りください。

①氏名 ②所属 ③連絡先 (e-mail) ④研究領域

⑤参加形態 (研究発表あり orなし)

ありの場合、一般発表とショート発表のどちらを希望するかもお書き下さい。

⑥懇親会 (参加 or 不参加)

**参加費：**無料

**申込締切：**8月末日

ただし、会場の収容人数の都合により、定員に達し次第、申込みを締め切らせていただきます。予めご了承ください。

**連絡先：**jspp.wk@gmail.com

**企画：**川本哲也 (東京大学大学院)、上原依子 (大阪大学大学院)、田中孝 (大阪大学大学院)、箕浦有希久 (関西学院大学大学院)

**主催：**日本パーソナリティ心理学会広報委員会 (大谷大和、蔵永瞳、古村健太郎、徳永侑子)

## 睡眠障害の理解と心理支援 —臨床実践に生かす眠りのメカニズム—

企画者：日本パーソナリティ心理学会第22回大会準備委員会  
／江戸川大学睡眠研究所

司会者：白川 修一郎（NPO法人 睡眠評価研究機構）

講演者：高橋 清久（公益財団法人 精神・神経科学振興財団）

パネリスト：福田 一彦（江戸川大学）

パネリスト：松田 英子（江戸川大学）

コメンテーター：津田 彰（久留米大学）



### 1. 企画主旨

睡眠障害は日本人の多くが経験しており、精神疾患、身体疾患との併存率も高いことが報告されている。近年、うつ病などの精神疾患の発症や再発要因の一つとして、睡眠障害が重要な意味を持っている事が判明している。また将来の自殺のリスクを高める要因の一つとしても注目されている。しかし睡眠学と臨床心理学・健康心理学の接点や交流の乏しさからか、心理臨床家による睡眠の重要性に関する理解と、睡眠障害に対する心理支援が十分でない現状が垣間見える。

そこで本シンポジウムでは、睡眠・精神医療の第一線で、長年基礎研究と臨床実践に取り組んでおられる高橋清久氏に、精神疾患と睡眠障害の関連性についての講演をいただく。

続くパネルディスカッションでは、各種精神疾患に対する心理支援の事例を取り上げる。福田一彦氏には、生理心理学の立場から、不登校や引きこもりなどに関する睡眠のリズムの調整や環境調整の事例を報告いただく。また、松田英子氏には、臨床心理学の立場から、悪夢障害と不眠に関する事例を報告していただく。そして、睡眠学者の白川修一郎氏に司会を、また健康心理学者の津田彰氏にコメンテーターをお願いしている。

このプログラムは、日本パーソナリティ心理学会会員と臨床心理士の研修用として考えており、睡眠の個人差を理解するとともに、自身の睡眠のセルフケア、心理臨床の現場で、来談者の睡眠や主訴の改善に向けた心理支援に生かしていただくことを目的としている。

# General and maladaptive traits from childhood to adulthood: lessons to be learned for the conceptualization and assessment of personality pathology

(子ども期から成人期にかけての適応的・不適応的なパーソナリティ特性：  
パーソナリティ病理学の概念化とアセスメントに必要ないくつかのこと)



企画者：日本パーソナリティ心理学会国際交流委員会

司会者：守谷順（立教大学）

講演者：Filip De Fruyt（Ghent University）

## 1. 企画主旨

パーソナリティの発達の側面については、近年非常に注目を集め研究が盛んに行われています。このような発達の側面は、パーソナリティ病理（パーソナリティ障害など）の概念やアセスメントを考えるうえでも非常に重要になってきます。しかし、現在の精神病理学の分類・診断に用いられているDSM（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders；精神障害の診断と統計の手引き）には、未だ発達の側面が組み込まれていない点が見受けられます。本招待講演では、パーソナリティ心理学の発達の側面および精神病理の側面に関する研究を牽引するベルギー・ゲント大学のDe Fruyt教授を招き、最新の研究についてお話していただきます。

## 2. 講演者略歴

De Fruyt教授は、1996年にゲント大学にて博士号を取得した後、同大学の准教授を経て、現在は同大学の発達・性格・社会心理学科（Department of Developmental, Personality, and Social Psychology）の教授として教鞭を執っています。

2005年まで5年間European Journal of Personalityの副編集長を務め、また現在もJournal of Personality and Social PsychologyやEuropean Journal of Personality, Journal of Personality Disordersなどパーソナリティのトップジャーナルの編集委員を務めています。これまでに筆頭著者としてJournal of Personality and Social PsychologyやJournal of Personalityなどのトップジャーナルに数多く論文が掲載されている他、共同研究も含めればScience, Journal of Abnormal Psychology, Development and Psychopathology, Health Psychologyなど100本以上の論文が掲載されています。現在のパーソナリティ心理学を牽引している、世界第一線の研究者です。

彼の研究分野は多岐にわたり、パーソナリティの様々な側面について研究されています。パーソナリティの発達の側面（児童期・青年期のパーソナリティ）、内在化問題（不安・うつなど）と外在化問題（反社会的行動・物質依存など）との関連、パーソナリティ障害との関連について調べている他、文化差とパーソナリティとの関連についても研究されています。

例えば発達の側面に関しては、子ども期のパーソナリティが測定可能なHierarchical Personality Inventory for Children（HiPIC）の開発に携わり、子ども期・青年期のパーソナリティが発達とともに安定的に維持されるか否かを調べています。また、子ども期のパーソナリティがその後のパーソナリティ障害を予測可能であるか、発達過程におけるパーソナリティと内在化問題とがどのように相互に影響を及ぼしているかなど、臨床的側面も考慮して研究されています。

文化差に関しては、世界の多くの研究者と共同して40以上の異なる文化のパーソナリティ傾向について調べています。国民性を表すステレオタイプが実際に国民のパーソナリティを反映しているか、また異なる文化においても普遍的なパーソナリティを正確に測定することが可能か研究され、Scienceなどのトップジャーナルに論文を掲載されています。

さらに、外在化問題に関しては、メタ分析を実施し反社会性パーソナリティ障害およびサイコパシーと関連のあるパーソナリティについて明らかにされています。また、物質依存・アルコール依存とパーソナリティ障害との関連について研究されており、研究内容が多岐にわたることが理解していただけると思います。

## 生命科学の進歩をめぐるヒトとパーソナリティの未来

—生物学・心理学からみた今後の課題と新たな可能性—

企画者：日本パーソナリティ心理学会第22回大会準備委員会

／江戸川大学サテライトセンター共催

司会者：松田 英子（江戸川大学）

司会者：田中 麻未（千葉大学）

講演者：太田 次郎（お茶の水女子大学）

講演者：安藤 寿康（慶應義塾大学）

コメンテーター：春日 喬（土田病院・お茶の水女子大学）



### 1. 企画主旨

近年の生命科学は、ヒトゲノム解読終了からヒトのiPS細胞（人工多能性幹細胞）の作製成功まで、この10年の間に目覚ましい進歩を遂げている。こうした生命科学の進歩は、人間や私たちの未来にどのように関わり、どのような問いを投げかけているのだろうか。

本公開講座では、分子生物学の研究で著名な太田次郎先生と双生児の長期縦断研究を牽引する安藤寿康先生を招き、生物学、行動遺伝学やパーソナリティ心理学の視点から最新の研究についてご講演いただく。そして、臨床心理学者の春日喬先生をコメンテーターに迎えて、太田先生と安藤先生の知見を基に、生命科学の進歩をめぐるヒトとパーソナリティの未来について一緒に考えていきたい。

## パーソナリティ心理学における統計分析の動向

企画者：日本パーソナリティ心理学会広報委員会

司会者：浅野良輔（浜松医科大学）

話題提供者：大久保街亜（専修大学）

話題提供者：高橋雄介（京都大学）

話題提供者：岡田 涼（香川大学）

指定討論者：荘島宏二郎（大学入試センター）

### 1. 企画主旨

パーソナリティ心理学は、他の心理学分野とくらべても、実に多岐にわたる統計分析の知識や実践が求められる領域である。本シンポジウムでは、近年注目を集めている統計分析の可能性と限界について具体的な応用例を交えながら議論することで、今後のパーソナリティ心理学における展開を考えていきたい。

聴衆のターゲットとしては、最新の統計手法をこれから実践しようとしている研究者だけでなく、「ひとまず知識のアップデートをしておきたい」、もしくは「論文で報告されている結果を読みこなせず困った」という研究者まで幅広く想定している。そのため本シンポジウムでは、数理的な背景は最小限に抑え、(1)問いの設定→(2)データの収集→(3)分析の実施→(4)考察という実際の応用場面に沿った解説を行っていく。発表で用いたソフトウェア（e.g., R, SPSS, SAS, Mplus）のコードをデモンストレーションするなど、聴衆が当該の分析法をできる限り身近に感じることでできる構成にしたい。

## 助け合いの心理学

—その起源、進化、そして現代への応用—

企画者：日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会

司会者：永井智（立正大学）

話題提供者：藤澤文（鎌倉女子大学）

話題提供者：小田亮（名古屋工業大学）

話題提供者：竹澤正哲（北海道大学）

話題提供者：脇本竜太郎（明治大学）

話題提供者：佐藤寛（関西大学）

指定討論者：内藤俊史（お茶の水女子大学）

### 1. 企画主旨

「助け合いの社会」という言葉は、その時々々の社会情勢を反映して、たびたび注目されるものである。学術的に見れば、「助け合いの社会」というテーマは非常に古典的なものであり、これまで様々な分野において、助け合いに関する研究・実践が多く行われてきた。しかし研究の多さにも関わらず、「助け合いの社会」構築に向け、我々に何ができるかという基本的な点に立ち返ると、課題はまだ非常に多く残されていると考えられる。そこで本シンポジウムでは、この極めて基本的なテーマに立ち返り、様々な領域における研究に触れながら、「助け合いの社会」に向けて、何ができるか、何をすべきかについて考えていく。

話題提供者には、各領域で先進的な研究を実施している先生方をお招きし、各専門分野の観点から助け合いについてお話し頂く。また指定討論には、道徳性について様々な研究を実践されている内藤俊史先生にお願いする。なお話題提供の際は、「①自身の研究の観点から「助け合いの社会」構築に向けた提言」「②提言された視点の持つ限界と、その克服のための視点・提言」という2点について、それぞれコメントを頂く予定である。

## 恋愛関係の終わりを考える

—別れの予感から立ち直りまで—

企画者：日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会

司会者：天野陽一（首都大学東京）

話題提供者：立脇洋介（大学入試センター）

話題提供者：牧野幸志（摂南大学）

話題提供者：山下倫実（十文字学園女子大学）

指定討論者：金政祐司（追手門学院大学）

### 1. 企画主旨

恋愛をテーマとした研究は多いが、その大部分は関係の形成や維持に焦点を当てたものであり、関係の終わりについては知見の蓄積が十分とはいえない。多くの若者が恋人との別れを経験し、生涯のうちに複数の相手との交際を経験することを考えれば、関係の崩壊に注目した研究の重要性は明らかであろう。

本シンポジウムでは「関係崩壊」をキーワードとして3名の先生方に話題提供をお願いした。立脇氏には異性交際中に経験する感情について、牧野氏には別れを切り出した側の説得方略について、山下氏には関係崩壊からの立ち直りと周囲からのソーシャル・サポートの関連について、それぞれご発表いただく。

指定討論として金政氏をお招きし、恋愛研究全体を見据えたコメントをいただく予定である。関係崩壊に注目する意義や今後の研究の発展について、フロアの先生方も交えた活発な議論を期待したい。

## パーソナリティ心理学の基礎教育

—初学者にとって効果的な授業の内容と展開方法とは？—

企画者：日本パーソナリティ心理学会大会活性化委員会

司会者：中村 真（江戸川大学）

話題提供者：高澤 則美（江戸川大学）

小塩 真司（早稲田大学）

森 津太子（放送大学）



### 1. 企画主旨

近年、心理学の基礎教育をめぐっては、その意義や実践方法などに関して活発な議論が行われている。本企画では、高校生や大学1年生といった初学者を対象とするパーソナリティ心理学の望ましい基礎教育のあり方について検討する。

3人の話題提供者には、それぞれの専門の立場から、高校生を対象とするパーソナリティ心理学の授業を実際に行ってもらい、一般の参加者（フロア）には、授業の様子を見学していただく。

まず、高澤則美先生には、パーソナリティ類型と犯罪との関係を論じていただく。犯罪の発生は、環境とパーソナリティとの相互作用としてとらえられており、社会的要因である環境要因はきわめて重要であるが、犯罪によってはパーソナリティとの関係も認めざるを得ない場合があるという。この問題について類型論を中心にお話しいただき、パーソナリティをいくつかのタイプに分けて論じることの意義やその課題などを初学者に学んでもらう。

小塩真司先生には、パーソナリティ特性論の考え方やその特徴について解説していただく。簡便な心理テストを実施して高校生に自分のパーソナリティを把握してもらいながら、特性論では人をいくつかの種類に分けるのではなく、パーソナリティの次元（軸）に注目するという点ならびにその利点を初学者に学んでもらう。

森津太子先生には、パーソナリティと環境の相互作用についてお話いただく。パーソナリティが異なる人の行動が時折よく似ていたり、それとは逆に、同じ人物の行動が状況によって矛盾したりすることがあるのはなぜなのかについて実験例を盛り込みながら説明していただき、人間の行動に影響する環境の役割の重要性を初学者に学んでもらう。

各話題提供者の講演（授業）の後、フロアの方を交えて、初学者に対するパーソナリティ心理学の基礎教育について、その内容や授業の展開方法などに関する活発な議論が行われることによって、意義のある知見が導かれることを期待する。併せて、若手の大学教員や近い将来、研究者として大学教育に携わることを志す院生会員の方にとっても大いに参考になるデモンストレーションや議論の場となることを期待したい。

## パーソナリティと県民性

—人國記からの考察—

企画者：浮谷秀一（東京富士大学）

司会者：浮谷秀一（東京富士大学）

話題提供者：大村政男（日本大学）

指定討論者：莊巖舜哉（京都光華女子大学）

渡邊芳之（帯広畜産大学）

藤田主一（日本体育大学）

日本全国の県民性を『人國記』を参考にして、原則として大会開催地周辺地域を取り上げ、研究発表をしてきた。ほぼ全国を網羅したので、それらを総括する意味で自主ワークショップを企画した。

企画内容は、大村政男氏からパーソナリティと県民性の見解を話題提供していただき、それをもとにして、各地域に関連した個性豊かな先生方にその地域の特徴を取り上げながら指定討論していただこうと考えている。指定討論者としては、九州と京都に関わりがある莊巖舜哉氏、北海道に関わりがある渡邊芳之氏、新潟に関わりがある藤田主一氏である。

大村政男氏の基本的な考え方の要点は次の通りである。

ある地域に特徴的なパーソナリティがあるか—というとき困惑するのは「パーソナリティ」という言葉の解釈である。最近、海外ではこの言葉が汎用されて「モンキーのパーソナリティ」とか「オクトパスのパーソナリティ」などと使われている。私たち（大村・藤田・浮谷）は文化人類学の祖父江孝男が用いた「人柄」が気に入っている。この言葉を旺文社の『英訳つき国語総合新辞典』で引くと「人格、品格、人品、character、personality」としている。

この「人柄」は自然的環境条件（風土）と密接に関連しているという。心理学は「科学」を標榜するあまり人柄のような通俗語を嫌悪するが、オクトパスにまでpersonalityを使うよりはずっと増しだと思っている。

わが国の古文書に各地域の住民の人柄について記述した『人國記』という書物がある。世界で最初の風土心理学の本といえる。著者も発行年も明らかではないが室町時代（足利時代）に出版されたものらしい。この書物が江戸元禄時代に関祖興によって地図入りで改編出版されている。私たちは前者を室町本、後者を元禄本と名づけているが、住民の人柄の記述は似たり寄ったりである。室町本はその末尾に、地域によって住民の人柄は変わってくるが為政者が儒教・仏教・神道などの教義に拠って住民を教導すれば人柄を正面(まとも)にすることができよう—と記述している。元禄本もその結びで国が治まるか乱れるかは住民の風俗（生活の仕方）に拠って決まってくる、そしてそれは為政者の賢愚に関わっている—とまとめている。

現代はどうか。民主社会で為政者の影響などあるはずがない。住民の人柄形成に大きな力を持つのはその地域を流れている歴史的偏見ではないだろうか。

血液型に替わっていま県民性が花盛りであるが、その根源が室町時代にあることを知っている人は少ないと思う。

- PA01 青年期のボランティア活動への参加志向動機の規定要因  
○荒井 俊行 (早稲田大学)
- PA02 大学生における介護・扶養意識  
—パーソナリティ・文脈の自己認知による意識の違い—  
○杉山 佳菜子 (太成学院大学)
- PA03 学生ボランティア団体の活動継続に関する要因の質的検討  
—災害ボランティア団体のリーダーに対するPAC分析から—  
○岡鼻 千尋 (香川大学)  
大久保 智生 (香川大学)
- PA04 短大評価の規定要因に関する調査研究  
○武藤 玲路 (長崎女子短期大学)  
武藤 郁和 (福岡こども短期大学)  
武藤 幸穂 (第一幼児教育短期大学)
- PA05 心霊体験と心霊信奉の関連性  
○向居 暁 (高松大学)  
佐藤 純 (茨城県立医療大学)
- PA06 依頼者の知りたい“キャンプ体験”にどこまで近づけるか?  
—ZICEの応用可能性を検討する—  
○長谷川 香奈 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
小田切 昌代 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
山下 温子 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
山元 隆子 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
後藤 龍太 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
盛合 智絵 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
平野 直己 (岩見沢キャンプ心理学研究会)

- PA07 継続キャンプに携わる大人の体験の変化するもの・しないもの  
—ZICEを用いて現れるさまざまな体験の性質—  
○後藤 龍太 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
盛合 智絵 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
長谷川 香奈 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
森 慧太郎 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
山下 温子 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
平野 直己 (岩見沢キャンプ心理学研究会)
- PA08 3回の継続キャンプを子どもはどのように体験したか？  
—ZICEからとらえる子どものキャンプ体験の変化—  
○盛合 智絵 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
後藤 龍太 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
長谷川 香奈 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
森 慧太郎 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
山下 温子 (岩見沢キャンプ心理学研究会)  
平野 直己 (岩見沢キャンプ心理学研究会)
- PA09 東日本大震災後の子どもの津波体験と原発体験の特徴  
—小中高校生の作文のテキストマイニングより—  
○いとう たけひこ (和光大学)
- PA10 自己愛が精神的健康を低下させるプロセスモデルの検討  
—評価過敏性自己愛と獲得的セルフ・ハンディキャッピングに注目して—  
○兵藤 弘一 (昭和女子大学)  
今城 周造 (昭和女子大学)
- PA11 顕在的・潜在的自尊感情の不一致と抑うつ・不安, 孤独感の関連  
○藤井 勉 (誠信女子大学校)
- PA12 スポーツ競技者における自己意識および他者意識と注意スタイルとの関係  
○陶山 智 (日本体育大学)  
大東 忠司 (日本体育大学)
- PA13 状況による方略選択の時系列変化 —レポート課題状況からの検討—  
○小林 麻衣 (東洋大学)
- PA14 実験と質問紙を利用した状態と特性好奇心の調査 —マルチレベル分析—  
○西川 一二 (関西大学)

- PA15 「卑屈さ」による影響の検討 ―信頼感、自意識、原因帰属に着目して―  
○鹿内 美冴（宮城学院女子大学）  
友野 隆成（宮城学院女子大学）
- PA16 文化的自己観が自己高揚呈示／自己卑下呈示に及ぼす影響  
―内集団への集団表象と自己価値の随伴性の媒介効果の検討―  
○船越 理沙（フェリス女学院大学）  
潮村 公弘（フェリス女学院大学）
- PA17 自己愛傾向と関係性の認知および資源の分配との関連  
○加藤 仁（名古屋大学）  
五十嵐 祐（名古屋大学）
- PA18 自己愛的傾向と対人葛藤場面における他者の意図の認知  
―敵意帰属と怒りの情緒反応に着目して―  
○相澤 直樹（神戸大学）
- PA19 青年期のケータイ・メールと孤独感  
○神野 美智男（東北大学）
- PA20 成人期の適応に影響する青年期・成人期の対人的要因  
―17年後の縦断的検討―  
○山岸 明子（順天堂大学）
- PA21 女性のライフイベントと発達に関する横断的研究(2)  
―20代～40代女性のレジリエンス―  
○伏見 友里（東京家政大学）  
井森 澄江（東京家政大学）  
岩治 まとか（鶴川女子短期大学）
- PA22 女性のライフイベントと発達に関する横断的研究(3)  
―20～40代女性における大学卒業後の適応感の分析―  
○井森 澄江（東京家政大学）  
伏見 友里（東京家政大学）  
岩治 まとか（鶴川女子短期大学）

- PA23 女性のライフイベントと発達に関する横断的研究(4)  
—20~40代女性の満足度とレジリエンス—  
○岩治まとか（鶴川女子短期大学）  
井森 澄江（東京家政大学）  
伏見 友里（東京家政大学）
- PA24 重要他者に対する愛着が恋愛の欺瞞場面に及ぼす効果  
—場面想定法による検討—  
○亀井 隆幸（立命館大学）  
八木 保樹（立命館大学）
- PA25 小中学生における向社会性パーソナリティの発達過程  
○村上 達也（筑波大学・日本学術振興会）  
西村 多久磨（筑波大学）
- PA26 小中学生における向社会的行動の発達の變化  
○西村 多久磨（筑波大学）  
村上 達也（筑波大学・日本学術振興会）
- PA27 青年期において愛着の顕在・潜在的内的作業モデルが抑うつに及ぼす影響  
—潜在連合テストを用いた検討—  
○大浦 真一（甲南大学）  
松尾 和弥（甲南大学）  
福井 義一（甲南大学）
- PA28 不安定な愛着スタイルはいかなるときも関係性を阻害するか  
—ペアデータを用いた縦断的検討—  
○浅野 良輔（浜松医科大学）
- PA29 特別な支援を必要とする就学児童の認知特性  
—田中ビネーV知能検査からの検討—  
○吉原 勝（放送大学）
- PA30 幼児期の自己有能感・社会的受容感の発達に関わる要因の検討  
—保育者のコーピングスタイル／バーンアウト傾向との関連—  
○眞榮城 和美（清泉女学院大学）
- PA31 子どもが感じる居心地の良さを規定する要因の検討  
—親子の関わり，養育者の持つ育児観を中心に—  
○萩生田 伸子（埼玉大学）

- PA32** 情動知能が社会的排斥経験後の報復行動に及ぼす影響  
—報復の意図の高低に応じた検討—  
○野崎 優樹 (京都大学・日本学術振興会)  
子安 増生 (京都大学)
- PA33** お金に対する信念と社会的状況および家計変数の関連  
○渡辺 伸子 (筑波大学)
- PA34** 複数リーダーの関係性が集団成員の満足度と遂行量に及ぼす影響  
○米澤 駿 (中部大学)  
高比良 美詠子 (中部大学)
- PA35** パーソナリティは利他行動にどう影響するのか  
—対象別利他行動尺度による検討—  
○小田 亮 (名古屋工業大学)  
武田 美亜 (青山学院女子短期大学)
- PA36** 認知された自他のパーソナリティによる対人関係の良好性の予測  
—外向性に注目して—  
○水野 邦夫 (帝塚山大学)
- PA37** 対人恐怖心性に及ぼす3次元自己制御・自尊感情・年齢の影響  
○山岡 重行 (聖徳大学)
- PA38** 自由意志信念から援助行動・攻撃行動への影響過程  
—自己制御という観点から—  
○渡辺 匠 (東京大学・日本学術振興会)  
櫻井 良祐 (東京大学)  
唐沢 かおり (東京大学)
- PA39** 日本人の友人ペアにおける人生満足度の自己評定と他者評定の合致度  
—日本における人生満足度評定の妥当性の検証—  
○佐伯 政男 (慶応義塾大学)  
前野 隆司 (慶応義塾大学)
- PA40** ふれ合い恐怖的心性と他者意図の判断・情緒反応との関連  
—対人恐怖心性との特徴比較から—  
○小池 春菜 (東京成徳大学)  
中村 真理 (東京成徳大学)

- PA41 不注意, 多動-衝動性傾向が先延ばし行動に与える影響  
○古北 みゆき (駒澤大学)  
有光 興記 (駒澤大学)
- PA42 SNSプロフィールからパーソナリティは推測できるか?  
○佐藤 広英 (信州大学)
- PA43 心理的距離と対人不安傾向の関連  
—場面間の差や理想と現実のずれに着目して—  
○長澤 美幸 (筑波大学)  
望月 聡 (筑波大学)
- PA44 「一人でいられる能力」についての検討  
○仁木 朝陽 (九州産業大学)  
吉村 仁 (九州産業大学)  
川上 範夫 (九州産業大学)
- PA45 社会へのイメージと就労働機 —大学生ならびに社会人との比較から—  
○金政 祐司 (追手門学院大学)
- PA46 街中で初対面男性から話しかけられたときの女性の意識と対応  
○仲嶺 真 (筑波大学)
- PA47 大学生の援助要請スタイルに関する短期縦断的研究  
—援助要請スタイルは実際の援助要請行動を予測するか—  
○永井 智 (立正大学)
- PA48 楽観性および時間的展望と先延ばし傾向の関連の検討  
○吉田 恵理 (聖心女子大学)
- PA49 “空気が読めること”で顧客志向的行動ができるのか?  
—美容師のセルフ・モニタリングに注目した事例研究  
○大嶋 玲未 (立教大学)  
廣川 佳子 (立教大学)  
向井 志緒子 (立教大学)
- PA50 社会的自己制御の内的プロセスの検討  
—自己制御行動の価値, コスト, 誘惑評定に着目して—  
○原田 知佳 (名城大学)

- PA51 承認欲求が成功の見込みがあいまいな時の対人行動に及ぼす影響  
—恋愛における告白行動の促進および抑制について—  
○小島 弥生 (埼玉学園大学)
- PA52 大学生のいじめ加担経験が仲間関係・協調性・共感性に与える影響  
○大山 智子 (白百合女子大学)  
登張 真穂 (文教大学)  
名尾 典子 (文教大学)  
首藤 敏元 (埼玉大学)  
木村 あやの (昭和女子大学)
- PA53 バーナム効果のほんとうの要因—“人間らしさ・人間味”と“多面性”—  
○仁平 義明 (白鷗大学)  
竹澤 洋子 (白鷗大学)
- PA54 ハイリスクな美容商品の勧誘に乗りやすいのはどのような人か?  
○津田 恭充 (愛知学泉大学)
- PA55 対人ストレスに対する臨床心理学的援助の要請について  
○依田 尚也 (学習院大学)
- PA56 抑うつ・不安の認知バイアスに関する実験的検討  
—自己認知バイアスと顕在記憶バイアスの分析—  
○川上 彩子 (日本福祉教育専門学校)  
松田 英子 (江戸川大学)
- PA57 中学生におけるサイコパス特性と社会的情報処理の関連(2)  
—扁桃腺機能を統制した検討—  
○吉澤 寛之 (岐阜聖徳学園大学)  
福井 裕輝 (犯罪精神医学研究機構)
- PA58 “かわいい”感情に関係するパーソナリティ特性  
—サイコパシー特性と対人不安の観点から—  
○金井 嘉宏 (東北学院大学)  
入戸野 宏 (広島大学)
- PA59 精神科患者は曖昧さにどのような態度を示すのか  
—抑うつ症状を統制した曖昧さへの態度の予備的研究—  
○榎木 宏之 (琉球大学・平和病院)

- PA60** 不公正な状況への非介入に及ぼすサイコパシー特性と賞罰の影響  
○増井 啓太（日本学術振興会）  
入口 将一（株式会社ニトリ）  
浦 光博（広島大学）
- PA61** インターネットアディクションの心理・環境的背景  
—入手可能性, 志向性, 脆弱性の観点から—  
○高橋 伸彰（関西学院大学）  
成田 健一（関西学院大学）  
嶋崎 恒雄（関西学院大学）
- PA62** サイコパシーと共感性の関係に及ぼす自己意識の影響  
○田村 紋女（広島大学）  
本村 有理（広島大学）  
高田 圭二（広島大学）  
杉浦 義典（広島大学）
- PA63** 大学生のボランティア活動と協調性との関連  
○木村 あやの（昭和女子大学）  
登張 真稲（文教大学）  
大山 智子（白百合女子大学）  
首藤 敏元（埼玉大学）  
名尾 典子（文教大学）
- PA64** あいまいさへの非寛容性が対人ストレスコーピングに及ぼす影響  
—対人ストレス状況における葛藤場面・緊張場面・摩耗場面の比較—  
○今川 民雄（北星学園大学）  
渡邊 舞（北星学園大学）
- PA65** 統合失調症型パーソナリティとQOLの関連  
—侵入思考に対するコントロール感と対処方略からの検討—  
○佐藤 拓（いわき明星大学）  
荒木 剛（東北大学）  
池田 和浩（尚絅学院大学）  
菊地 史倫（公益財団法人鉄道総合技術研究所）
- PA66** 「ふつう」であることの安心感<sup>(14)</sup> —文化的自己観からの検討—  
○黒石 憲洋（日本教育大学院大学）  
佐野 予理子（清泉女学院大学）

- PA67 自己注目が失敗からの心理的成長に与える影響  
—自尊感情・自己価値の随伴性を媒介として—  
○新延 知美 (目白大学)  
今野 裕之 (目白大学)
- PA68 パーソナリティ障害特性と自尊感情の変動性との関連  
—短期縦断調査による検討—  
○市川 玲子 (筑波大学)  
望月 聡 (筑波大学)
- PA69 自己愛者はいつも非協力的なのか  
—評価条件によるグループ作業課題への取り組みの違いの検討—  
○中山 留美子 (奈良教育大学)
- PA70 過敏型自己愛傾向と仮想的有能感が攻撃性に及ぼす影響  
—自己価値・対人関係性への脅威, の媒介効果—  
○佐藤 勝義 (広島大学)  
岩永 誠 (広島大学)
- PA71 「転生願望法」にみられる女子大学生の理想自我  
○西村 知香 (川村学園女子大学)  
松原 由枝 (川村学園女子大学)
- PA72 個を尊重した関係性の構築と充実した生き方との関連  
○中嶋 眞佐江 (無所属)  
名取 洋典 (いわき明星大学)  
杉本 英晴 (中部大学)  
青柳 肇 (早稲田大学)
- PA73 男性は誰の目を意識して装うのか  
—そしてそこに承認欲求は関連しているのか—  
○鈴木 公啓 (東京未来大学)  
菅原 健介 (聖心女子大学)
- PA74 友人関係における動機づけと友人とのコミュニケーションおよび精神的健康との関連  
○本田 周二 (島根大学・東洋大学)

**PA75** 教師の学級経営の柔軟性が子どもの学級適応に及ぼす影響(2)

—学級経営のスタイルと学級集団の雰囲気の適合性が学級適応に及ぼす影響—

○大久保 智生 (香川大学)

江村 早紀 (神戸市立北須磨小学校)

尾崎 沙織 (坂出市立坂出小学校)

**PA76** 東日本大震災後の不定状況と風評心理

○木戸 彩恵 (立命館大学)

サトウ タツヤ (立命館大学)

**PB01** 「走れメロス」(太宰治)のキャラクターの記述

—ジョハリの窓とSD法による分析—

○大野木 裕明(仁愛大学)

**PB02** 郵送調査における返送速度とパーソナリティ特性の関連

○箕浦 有希久(関西学院大学)

成田 健一(関西学院大学)

**PB03** 人國記の心理学的研究 —渡邊徹『旧新人國記』刊行60年を記念して(補遺)—

千葉県人のダブルイメージ

○大村 政男(日本大学)

藤田 主一(日本体育大学)

浮谷 秀一(東京富士大学)

**PB04** 改訂版日常的解離尺度の作成3 —下位5因子が精神的健康に与える影響—

○舩田 亮太(久留米大学)

**PB05** ECR短縮版作成のための予備的検討(1)

—Wei,Russell,Mallinckrodt,&Vogel(2007)の因子構造と信頼性の検討—

○古村 健太郎(筑波大学)

村上 達也(筑波大学・日本学術振興会)

**PB06** 自己概念の「揺らぎ」尺度の妥当性検証

○川本 哲也(東京大学)

**PB07** 不安自己陳述尺度(ASSQ)日本語版の開発 —信頼性・妥当性の検討—

○富島 大樹(聖徳大学)

代田 剛嗣(NPO法人リンケージ)

**PB08** 質問紙法「新・エゴグラム(仮称)」の信頼性・妥当性の検討

—再検査法とTEG第2版との関連から—

○渡部 麻美(東洋英和女学院大学)

市村 美帆(目白大学)

松井 豊(筑波大学)

和田 迪子(聖心女子大学)

- PB09** 日本版MBI-ESの標準化(1)  
—共分散構造分析による日本版MBI-ESの因子構造の推定—  
○森 慶輔 (足利工業大学)  
宮下 敏恵 (上越教育大学)  
奥村 太一 (上越教育大学)  
西村 昭徳 (群馬医療福祉大学)  
北島 正人 (秋田大学)
- PB10** 日本版MBI-ESの標準化に関する研究(2)  
—多次元段階反応モデルによる項目分析—  
○奥村 太一 (上越教育大学)  
宮下 敏恵 (上越教育大学)  
森 慶輔 (足利工業大学)  
西村 昭徳 (群馬医療福祉大学)  
北島 正人 (秋田大学)
- PB11** 日本版MBI-ESの標準化に関する研究(3) —個人属性による差異の検討—  
○西村 昭徳 (群馬医療福祉大学)  
森 慶輔 (足利工業大学)  
宮下 敏恵 (上越教育大学)  
奥村 太一 (上越教育大学)  
北島 正人 (秋田大学)
- PB12** 日本版MBI-ESの標準化に関する研究(4)  
—教職のやりがい尺度, 感情労働尺度, GHQ-30との関連から—  
○宮下 敏恵 (上越教育大学)  
森 慶輔 (足利工業大学)  
西村 昭徳 (群馬医療福祉大学)  
奥村 太一 (上越教育大学)  
北島 正人 (秋田大学)
- PB13** 描画法による愛着スタイルの測定 —円環イメージ画を用いて—  
○芳賀 信太郎 (鳴門教育大学)  
今田 雄三 (鳴門教育大学)
- PB14** 攻撃性を測定する条件文推論テスト (CRT-A) 日本語版の作成  
—BigFiveおよび自尊心との関連の検討—  
○寺島 瞳 (筑波大学)

- PB15** 時間的展望イメージ尺度の作成の試み(2)  
—確認的因子分析及びPOMSとの関連性—  
○松田 登美子 (東京富士大学)
- PB16** 多次元敏感性尺度作成に関する研究  
○中澤 清 (関西学院大学)
- PB17** 日本語版ユーモアスタイル質問紙の信頼性・妥当性の検討  
○高岡 しの (関西学院大学)
- PB18** U-MICS日本語版の信頼性及び妥当性の検討 —青年期・成人形成期を対象に—  
○畑野 快 (京都大学・日本学術振興会)
- PB19** 5因子性格特性と社会的望ましさ反応の関連 —BIDRおよびSDSを用いた検討—  
○谷 伊織 (東海学園大学)
- PB20** 恥意識尺度の信頼性・妥当性の検討  
○中村 真 (江戸川大学)
- PB21** 動機づけを重視することが課題の先延ばしに及ぼす影響  
—動機づけの不安定性を介するプロセス—  
○岡田 涼 (香川大学)  
伊藤 崇達 (京都教育大学)  
梅本 貴豊 (名古屋大学)  
大谷 和大 (大阪大学)
- PB22** 労働者の夢想起の個人差を説明する要因の検討 —BigFiveとストレスによる分析—  
○松田 英子 (江戸川大学)  
鈴木 千恵 (江戸川大学)
- PB23** 女子大学生のポジティブな内省について —パーソナリティとQOLとの関連から—  
○星 かおり (お茶の水女子大学)
- PB24** 大学入試における競争と学習動機, 受験不安, 学習行動の関連  
—高校生の受験競争観に着目して—  
○鈴木 雅之 (国立情報学研究所)
- PB25** 部活動に対する意欲と継続力を引き出す要因の検討  
○野中 一成 (中部大学)

- PB26** 完全主義と生活感情の日内変動との関連  
○坪田 祐基 (名古屋大学)  
大久保 諒 (名古屋大学)
- PB27** 自伝的記憶の想起における気分不一致効果を規定する要因  
○徳島 沙帆 (広島大学)
- PB28** シヤイネスに特徴的な不合理な信念と主観的幸福感との関連  
○福田 正人 (川崎医療福祉大学)  
寺崎 正治 (川崎医療福祉大学)  
門田 昌子 (倉敷市立短期大学)
- PB29** 女子大学生におけるレジリエンスの特徴と精神的健康の多様性  
○椎名 しおり (無所属)
- PB30** 青年が恋人とセックスをした時に生じる感情とセックス満足度・関係満足度との関連  
○高坂 康雅 (和光大学)  
澤村 いのり (和光大学)
- PB31** 自律的な動機づけと教育的適応感の検討 ―トラッキングに着目して―  
○福住 紀明 (東京電機大学)  
山口 正二 (東京電機大学)
- PB32** 屈辱経験時の対処行動の特徴 ―自己の落ち度に着目して―  
○太幡 直也 (常磐大学)
- PB33** 「イライラ」の構造について～因子分析による検討～  
○安井 友紀乃 (駿河台大学)  
岩熊 史朗 (駿河台大学)
- PB34** 曖昧さ耐性の時間軸設定の意義に関する検討  
○友野 隆成 (宮城学院女子大学)
- PB35** ポジティブ特性とポジティブ認知がハピネスに及ぼす影響  
―企業従業員を対象として―  
○松山 真太郎 (株式会社ヒューマネージ)  
宇佐美 尋子 (聖徳大学)  
川上 真史 (タワーズワトソン・ビジネス・ブレイクスルー大学)

- PB36** 外向性, 神経症的傾向と日誌法によって測定された出来事, 感情との関連  
○門田 昌子 (倉敷市立短期大学)  
寺崎 正治 (川崎医療福祉大学)  
福田 正人 (川崎医療福祉大学)
- PB37** 双生児におけるレジリエンス要因の類似性と立ち直り体験の違い  
—ソーシャルサポートの観点から—  
○平野 真理 (東京大学)
- PB38** 楽観性・悲観性と達成動機との関連についての日米比較文化研究  
○福沢 愛 (東京大学)
- PB39** 自己および他者に対する怒り経験と沈静化 —感情・認知・行動面の比較—  
○高比良 美詠子 (中部大学)  
田中 裕乃 (中部大学)
- PB40** 共感性, 親和性, 感情欲求抑制が大学生の協調性に及ぼす影響  
○登張 真穂 (文教大学)  
名尾 典子 (文教大学)  
大山 智子 (白百合女子大学)  
首藤 敏元 (埼玉大学)  
木村 あやの (昭和女子大学)
- PB41** 学習方略使用に対する達成目標と自律的動機づけの交互作用効果  
○山口 剛 (法政大学・日本学術振興会)
- PB42** 屈辱感をバネにする要因の探索的検討  
○薊 理津子 (聖心女子大学)
- PB43** 顔写真を用いた表情認知課題用刺激セットの作成  
○島 義弘 (鹿児島大学)
- PB44** 調整方略と認知的方略の関連  
○梅本 貴豊 (名古屋大学)
- PB45** ひとは思考抑制の逆説的効果を信じているか?  
—思考抑制に関する信念の内容についての検討—  
○服部 陽介 (日本学術振興会・東京大学)

- PB46** 内的作業モデルの情報処理機能について(2)  
—GNAT (Go/No-go Association Task) を用いて—  
○戸田 弘二 (北海道教育大学)
- PB47** 経験への開放性と迷走神経活動が音楽聴取による鳥肌感に及ぼす影響  
○森 数馬 (産業技術総合研究所・ヒューマンライフテクノロジー研究部門)
- PB48** ダイエット実践についての自覚的認知と行動の相違  
○矢澤 美香子 (武蔵野大学通信教育部)
- PB49** 侵入思考に対する自我異和的評価と思考抑制の関係  
—「思考と行為の混同」の影響について—  
○荒木 剛 (東北大学)  
佐藤 拓 (いわき明星大学)  
菊地 史倫 (公益財団法人鉄道総合技術研究所)  
池田 和浩 (尚絅学院大学)
- PB50** 大学生の自己価値の随伴性と精神的健康  
—失敗場面に対する認知的評価に注目した検討—  
○橋本 空 (江戸川大学)
- PB51** 口の動きの統制が音声錯覚に与える影響 —マガーク効果を用いた検討—  
○氏家 悠太 (千葉大学)
- PB52** 二分法的思考が利他的規範の性質認知におよぼす影響  
—損失回避・利益獲得、当為的・賞賛的認知の視点から—  
○上原 依子 (大阪大学)
- PB53** 平等主義的性役割態度と脳の局所灰白質濃度の関連  
○竹内 光 (東北大学)
- PB54** 感覚の感受性と行動抑制システムとの関連性  
○船橋 亜希 (中京大学)
- PB55** 役割同一視尺度 (RIS) の作成と信頼性・妥当性の検討  
—顕在化しにくい抑うつ脆弱要因として—  
○井上 美沙 (関西大学)  
有光 興記 (駒澤大学)

- PB56** 日本語版LARSSの作成と信頼性・妥当性の検討  
○松本 昇 (筑波大学)  
望月 聡 (筑波大学)
- PB57** 気分状態測定に関する予備的研究 —重心動揺との関連性—  
○高橋直士 (早稲田大学)  
藤原 あゆみ (早稲田大学)  
石川 遥至 (早稲田大学)  
越川 房子 (早稲田大学)
- PB58** 日本版Transcendental-Future Time Perspective Scale因子構造の検討  
—死後の未来展望—  
○下島裕美 (杏林大学)
- PB59** 大学生のエゴ・レジリエンスが精神的健康に及ぼす影響  
—ソーシャルサポート、コーピングとの関連から—  
○畑潮 (目白大学)  
小野寺 敦子 (目白大学)
- PB60** ストレス関連成長によって何が変わるのか  
—獲得的レジリエンスとサポート利用可能性認知の縦断的検討—  
○中山 真 (名古屋大学)  
吉田 俊和 (岐阜聖徳学園大学)
- PA61** 患者の視点からのコミュニケーション—患者はどんなうそをつくのか—  
○三上 聡美 (九州大学)
- PA62** LGBTIの抱える問題に関する基礎的研究(1) —属性に関する検討—  
○市村 美帆 (目白大学)  
新井 洋輔 (東京福祉大学)  
村上 裕 (カウンセリングルームP・M・R)
- PA63** LGBTIの抱える問題に関する基礎的研究(2) —主訴に関する検討—  
○新井 洋輔 (東京福祉大学)  
村上 裕 (カウンセリングルームP・M・R)  
市村 美帆 (目白大学)
- PA64** 神経性過食症患者の自己概念と重要性に対する包括的参照枠の検討  
○竹田 剛 (大阪大学・日本学術振興会)  
佐々木 淳 (大阪大学)

**PB65** 女子大学生における身体の変性の認知

○大村美菜子（立正大学）

沢宮 容子（筑波大学）

小島 弥生（埼玉学園大学）

日本パーソナリティ心理学会 第22回大会準備委員会

委員長	松田 英子			
副委員長	高澤 則美			
事務局長	中村 真			
事務次長	木村 文香	橋本 空		
事務局	小出 建			
委員	浅岡 正一	浮谷 秀一	高比良 美詠子	
	田中 麻未	福田 一彦	森 津太子	

日本パーソナリティ心理学会 第22回大会プログラム

発行日：2013年9月1日

発行者：日本パーソナリティ心理学会

第22回大会準備委員会 委員長 松田 英子

〒270-0198 千葉県流山市駒木474

江戸川大学内

日本パーソナリティ心理学会第22回大会準備委員会

印刷・製本：(株)フィスメック?